

「夏の底泥」

—2 稿—

2024/9/17

雨森 れに

〈人物表〉

高野 結菜 (14) 居場所がないと感じている女の子

大石 智弘 (14) 結菜に恋している

高野 葉介 (64) 結菜の祖父

高野 順平 (45) 結菜の父親

持田 勇 智弘と同年。通称もっち

渡辺 佳久 智弘と同年。通常ナベ

〈ログライン〉

田舎に預けられた結菜が、幼い頃に意地悪してきた智弘を誤って殺してしま
う。

〈ねらい〉

テーマ触媒：おわり 意地悪してきた相手との関係のおわり。
間違つて殺しちゃったというシチュエーションが書きたかった。

1. 溪流（昼）

五年前。広く、泳げるぐらい溪流。
浅瀬で川遊びしている高野結菜（9）と大石智弘（9）、**勇（9）と佳久（9）**。
結菜、綺麗な小石を見つけて、智弘の肩を叩く。
智弘、結菜を突き飛ばす。
結菜は尻もちをついて水浸し。

智弘

「遊んでやったら調子乗りやがって。よそ者のくせに触んな。おい、行こうぜ」

智弘、勇と佳久を連れ、その場を去る。

結菜、悔しそうに唇を噛む。

2. 車・中（昼）

山の中を走る、四人乗りのコンパクトカー。
高野順平（45）が運転している。
左後部座席に高野結菜（14）。唇を噛んで、流れる景色を見ている。

ミラーから結菜の様子を伺う順平。

順平 「智弘くん、元気かな」

結菜、窓から視線を離さずに、

結菜 「だといいいね」

順平 「よく遊んでたよね。今年はLINEでも交換しなよ」

結菜 「私、話下手だから……」

結菜、崖下に溪流を見つける。

3. 溪流（昼）

岩の上で寝転がる大石智弘（14）。足を水につけて涼を取りながらスマホを触っている。
崖沿いの道から車のエンジン音。
智弘、崖を見上げる。
ガードレールの向こうを順平の車が通る。
光が反射し智弘が目を細める。

4. 車・中（昼）

溪流にいる智弘を見つめる結菜。唇を噛む。

5. 葉介の家・外観（昼）

村にある、田舎の家屋。庭とは別に砂利が敷かれている広い駐車場がある。

駐車場に入っていく順平の車。

6. 葉介の家・居間（昼）

十畳ほどの和室。仏壇には祖母の写真。

麦茶を出す高野葉介（64）。

葉介 「遠い所お疲れ様。ゆいちゃん、見ない間に随分おねえさんになったねえ」

結菜 「もう中学生だからねー」

順平 「川に落ちて泣きながら帰ってきたのが最後だったかな。

びしょびしょでパパくって。かわいかったなあ」

結菜 「そういうこと言わないでよ！」

葉介 「まあまあ。ゆいちゃん、さつき智弘くんがそのへん歩いてたよ。久しぶりに挨拶でもどうだい」

結菜、智弘と会いたくないのを誤魔化すように、

結菜 「それよりおじいちゃんのトマト食べたいから畑行ってもいい？」

葉介 「（嬉しそうに）もちろん。おいしそうな取っっておいで」

葉介、盆ザルを結菜に渡す。

見送る葉介と順平。

7. 道（昼）

畑に囲まれた小道。

ザルをぶらつかせながら結菜が歩いている。

智弘、後ろから、

智弘 「なあ」

結菜、振り向く。

智弘 「何年ぶりだよ。全然帰ってこなかったじゃん」

結菜 「えっと……智弘くん？ だよね？」

智弘 「顔も忘れたってわけ」

結菜 「違うよ！ なんていうか、久しぶりだから」

智弘、舌打ち。

智弘 「明日の昼、川で待ってるから」

結菜は川という言葉に眉をひそめる。

結菜 「明日はおじいちゃんとやる**ことがあるから無理**」

智弘 「じいさん、さっきいって言ってたよ」

智弘、にやりと笑う。

家へと走り出す結菜。

8. 葉介の家・外観（昼）

駐車場に順平の車はない。

9. 葉介の家・居間（昼）

縁側へ乱暴にザルを置き、室内に入る結菜。息が荒い。

結菜 「おじいちゃん！」

葉介 「おかえり。さつき智弘くんが来てね。明日みんなで川遊びしたいって。よかったねえ」

結菜、**葉介の笑みに言いたいことを我慢して、**

結菜 「でも、次は聞いてほしい。お父さんもお母さんも、いつもそうだから……（唇を噛む）」

葉介、はっとした顔。

結菜 「明日は行ってくるね」

10. 溪流・浅瀬（昼）

翌日の昼。曇天。

岩の上に智弘が座っている。

近づく結菜。

結菜 「**もっちゃんとナベくんは？**」

智弘 「あいつらは上の方いるよ」

智弘、溪流の先にある小さい滝を指差す。

11. 溪流・滝上（昼）

滝の上にある空間。木々に囲まれて薄暗い。

結菜 「誰もいないけど……」

智弘 「呼んでねえもん」

結菜 「え？」

智弘 「お前と話しかつたから嘘ついた」

結菜 「よそ者は出て行ってこと？」

智弘 「だから、それ謝りたいんだよ。あの時、よそ者なんて言うつもりなかったんだって」

結菜 「間違っていないじゃん。どうせよそ者だよ。お情けで遊んでくれてたんでしょ」

智弘 「テンパってたんだって！ お前が急に触ってくるから！」

結菜 「汚いから触るなってこと！？」

智弘 「ちげーよ！ 俺は五年間ずっと謝りたかったんだよ！」

結菜 「今だって謝っていないじゃん！ もういい！（去ろうとする）」

智弘 「話聞けよ！」

智弘が結菜の腕を掴む。

結菜 「やめて！」

反射的に智弘を突き飛ばす結菜。

智弘、そのまま滝へ落ちていく。

12. （回想）五年前・溪流（昼）

柱1、突き飛ばされた直後。

智弘 「遊んでやったら調子乗りやがって。よそ者のくせに触んな」

勇 「好きな子ほどいじめたいってやつ？」

佳久 「ひでー」

智弘 「（恥ずかしいのを誤魔化すように）おい、行くぞ！」

13. 溪流・滝上（昼）

結菜、目を見開く。

滝の音に混ざって着水音。

結菜 「智弘くん！」

滝つぼを覗き込む。

滝つぼの様子に口元を押さえる。

結菜 「ひっ……やだ……だって、急に触ったのが悪いのに……」

その場に崩れ落ちる。

結菜 「なんで。なんで……」

14. 葉介の家・居間（昼）

青白い顔をした結菜が帰ってくる。

葉介 「ゆいちゃん、どうした。具合でも悪いんか」

結菜 「川……」

葉介 「川で智弘くんたちと遊ぶんだろ？」

結菜 「おじいちゃん、私……」

結菜、肩を震わし泣き始める。

結菜 「違う。違うの。わからなくて帰ってきちゃったの」

葉介 「ああ、道がわからなかったんか？ 今から一緒に行こう

か？」

結菜、葉介に抱き着き、首を振る。

葉介 「智弘くん、ゆいちゃんにずっと会いたがってたんだよ。

じいちゃん言っとくから、明日は遊んであげな」

硬直する結菜。

結菜 「（震える声で）ごめん。ごめんなさい。ごめんなさい……」

「…」

葉介、心配そうに結菜を撫でる。

15. 村・外（夜）

住民が智弘を探している。懐中電灯の光が行き交い、
慌ただしい雰囲気。

16. 葉介の家・外（夜）

捜索隊の対応をする葉介。

住民 「高野のじいさんのところに顔出したのが昨日？」

葉介 「今日は川に行くって言ってたぞ」

住民 「川？ 今から何人かで川行ってみるか」

葉介 「それなら自分も一緒に行こう」

× × ×

縁側で隠れるようにして様子を伺う結菜。

結菜 「どうしよう……」

結菜の携帯に着信。相手は順平。

17. 葉介の家・縁側（夜）

順平の声 「ゆいちゃん！ 大丈夫！？」

結菜 「うん。でも村の人みんなバタバタしてる」

電話をしながら、葉介たちがどこかへ歩いていくのを眺める。

結菜 「今から探しに行くみたい」

順平の声 「ゆいちゃんは家にひとりでしょ？」

結菜 「うん。私、怖い……」

結菜は自分の手のひらを見つめる。

順平の声 「昨日の今日だけど、うちに帰ってくる？」

結菜 「え？」

少し考えて、

結菜 「ううん。そのほうがいい。明日迎えに来て」

結菜、そっと唇を噛む。

18. 溪流（夜）

浅瀬の流木に引っかかっている智弘の腕。
川のせせらぎ音。

おわり